

## ▼高山右近列福式▼

校長 阿南 孝也

ユスト高山右近の列福式ミサが、2月7日大阪城ホールにて、盛大に厳粛に行われました。追放先のマニラでの帰天から402年を経て、殉教者として福者の列に加えられることになったのです。福者とは、聖人の位にあげられる前提として、その生涯が神を証し、私たちの模範となることをカトリック教会が宣言し、「福者」という敬称がつけられるのです。

洛星とノートルダム女学院両校のオーケストラ部員が、合同で列福式ミサの演奏を担当（指揮は西尾望教諭）しました。ローマ教皇フランシスコ代理のアンジェロ・アマート枢機卿により「福者の列に加えよう」との教皇書簡が読み上げられ、列福が宣言されました。直後に演奏された聖歌「主こそわが光一祈る右近一」や、閉祭の歌「迷いを捨てて」のオーケストラ編曲は、安村好正氏（42期、洛星60周年記念交響曲「翔星」作曲者）と作曲家の石川まぎさんが担当してくれました。1万人を超える参加者の前で堂々と演奏する生徒たちの姿を、誇らしく思いました。近畿のカトリック学校から集まった生徒たちを中心とした聖歌隊の指揮は、遠藤政樹教諭が担当しました。

ミサはラテン語と日本語で進められ、共同祈願はタガログ語、韓国語、ベトナム語を交えるなど、国際色豊かなミサでした。3時間に及ぶ式の模様はYouTubeでご覧いただくことができます。特に、最後の10分を見ていただくと、洛星・ノートルダム女学院オーケストラの演奏をご覧いただくことができます。

高山右近は、山崎や関ヶ原の戦いでも活躍した優れた武将でした。城造りにも長け、「利休七哲」に数えられるほどの茶人でもありました。バテレン追放令で棄教した他の大名と異なっていたこと、それは、右近の真の主君は、信長でも秀吉でもなく、イエス・キリストであったということです。右近は信仰ゆえに、この世での地位や財産をすべて没収されました。そして27年に及ぶ追放生活を喜びのうちに生き抜き、大勢の人々に神の愛を証しする生涯を送りました。

昨年9月にマザーテレサが列聖されました。聖ヴィアートルをはじめ、聖人たちや福者たちは私たちの模範であり保護者です。彼らの生涯は、時代を超えて、力強く温かな励ましのメッセージを与えてくれるのです。物に溢れる現代社会にあって、目に見えない本当に大切なものを見失うことなく生きていくことができますように、祈りたいと思います。

11日から学年末考査が始まります。体調管理に気を配って考査に臨んでください。よき学びは、必ず皆さんの人格形成の大きな力となるはずです。良い形で一年を締めくくり、新年度につなげてほしい、そう願っています。